

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610125381		
法人名	医療法人 栄寿会		
事業所名	グループホームひかる		
所在地	徳島市名東町1丁目		
自己評価作成日	平成24年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療連携体制を整備している。近隣に協力医療機関があり、緊急時には24時間対応が可能となっている。防災設備についても、自動火災感知設備・スプリングクラー設備・消化用散水栓・119番通報装置を設置している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、独自の理念に基づき、利用者が地域のなかでその人らしく生活できるよう、日ごろの実践に取り組んでいる。代表者や管理者、職員間のチームワークも良い。利用者や家族より出された意見や要望、提案等は、運営面やサービスの質の向上に反映している。また、職員の学習意欲は高く、勉強会や内部研修へ積極的に参加している。職員一人ひとりの能力に応じたスキルアップへの取り組みを事業所全体で取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日ごろから理念を共有し、入居者の介護等に活かせるように努めている。	全職員で、地域密着型サービスの意義について確認しあっている。日ごろから、具体的な個別ケアに向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や保育所の子供達の来訪がある。また、運動会に招待されることもある。	法人全体の夏祭りや運動会に参加し、地域の人と交流を図っている。小学生や幼稚園児の来訪や近隣住民からの差し入れがある。また、公民館へ出向いて認知症の話をするなどしており、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席頂いた町内会長や老人クラブ会長に協力できることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容や現状の報告を行い、意見交換等を行っている。	定期的に運営推進会議を開催している。利用者や家族、長寿会、老人会、地域包括支援センター職員、管理者、ケアマネジャー、職員等の参加がある。利用者の生活に関する報告や情報交換等を行い、サービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日ごろから連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換を行っている。	事業所は、毎月の実績報告書を市担当窓口へ届けている。事業所の取り組みを伝えたり、様々な情報を得たりして、連携の強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で学んでいる。玄関の施錠は、夜9時から翌日6時迄としている。日中は、開錠しており、自由に出入りできるようになっている。	法人の開催する研修や事業所でのミーティングにて、身体拘束をしないケアについて学習している。また、利用者一人ひとりの外出への希望や天候、生活の状況等に応じて外出の支援を行っている。利用者一人ひとりの自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。また、カンファレンスやミーティング等で話で話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受け、必要な時には、家族への支援ができる様に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、本人や家族に丁寧な説明を行っている。また、いつでも解約できる事を併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、管理者や職員に、利用者が気軽に言ってもらえるようにしている。意見や要望等があれば、対策を検討し対処している。	日ごろから、利用者とのコミュニケーションを密に図ることで、一人ひとりの希望を把握したり、気持ちを推しはかたりしている。家族の来訪時には、意見を言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。お誕生会等の際には、利用者の希望を聞いてメニューに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取り入れている。	運営者や管理者は、職員の意見や要望を十分に聞いて運営面に反映している。日ごろから、職員とのコミュニケーションを図るよう努めており、意見を出しあうことのできる関係を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は、昇給時に考慮している。また、労働時間は、週40時間を遵守している。親睦会等の費用を一部負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修があり、特に外部研修については、受講料・交通費等の事業所負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等による交流の機会があり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニットI 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に面接を行い、困っていることや要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、要望等を聞いている。また、利用開始後も不安に思っていることを聞き、介護に活かすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や性格等を教えてもらいケアプランに反映している。また、他の事業所から移られた時には、医療情報や生活情報を参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝食・昼食・夕食は、ホールで入居者と職員が一緒に摂り、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望を聞くと共に、ホームでの生活状況を知ってもらっている。家族と共に入居者様が支えて行ける様に、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が気軽に来訪してくれている。	近隣の地蔵へのお参りを継続して行っている。また、地域住民や昔の仕事仲間の来訪等もあり、馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをしたり、ドライブやレクリエーション等を通じて皆が楽しめる場を作っている。利用者が孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や事業所に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、希望などを聞き把握している。	日ごろの関わりを通じて、利用者一人ひとりの意向を把握している。また、意思疎通の困難な方には、些細な動作や表情、しぐさ等から気持ちを汲みとるようにしている。家族からも情報を得て、その人らしく生活することができるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス時には、情况等を話合って把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重要な事は、申し送りや個別の記録、連絡帳ノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、本人や家族から要望や希望をお聞きし、介護計画に取り入れている。	介護計画の見直しの際には、家族にも希望や意見を聞くようにしている。利用者が主体となって毎日の生活を送ることできるよう、カンファレンスやミーティング等の際に検討を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要なことは、連絡ノートに記載し、情報は、職員間で共有している。また、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟に対応できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、月1回来訪して散髪をしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整備して、入居者の方は、全員協力医療機関の医師がかかりつけ医師からの指示をもらっている。	主治医や他の専門医と密に連携を図って、受診の支援や情報の共有に努めている。また、訪問診療により適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員がいるため、いつでも気軽に相談できる。変化が見られた時には、看護師に相談し医師からの指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師と連携し、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に病状等の説明を行い、急変時や終末期の要望を聞いている。	入居時の段階で、重度化した場合や終末期のあり方について話しあっている。利用者の状態変化に応じ十分に検討を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また、内部研修でも学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法や蘇生法、地震時の対応方法などについて学習している。	防災対策委員会を立ち上げ、月1回、話しあいを行っている。また、事業所で備蓄を行い、災害発生時に備えている。消防署の協力を得たうえで、母体法人と合同で防災・避難訓練等を実施しているが、事業所独自の避難訓練を実施するまでには至っていない。	災害時に備え、消防署や関連事業所との連携により訓練を実施しているが、事業所からの避難をより迅速・確実に行うためにも、年2回以上は事業所独自の訓練を行うべく取り組まれたい。また、より効果的な訓練となるよう、地域住民の協力を得られるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニットI 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけない言葉使いや介護をおこなっている。	利用者を人生の先輩として尊敬して接するよう努めている。全職員が、優しい笑顔で声かけを行うよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かり易く説明をし、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけをして、居室で着替えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に好きな食べ物を聞き、献立作りに取り入れている。また、食材の下ごしらえや配膳、下膳を手伝ってくれている。	利用者と職員は、料理の下準備や配膳、下膳等をともに行っている。利用者と職員は、大きなテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週作成した献立表を、管理者や併設事業者の管理栄養士にチェックしてもらっている。ペットボトルに白湯やお茶を入れ、居室でいつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニットI 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した時には、プライドを傷つけないように、声かけを行いながら、更衣介助をしている。また、トイレへの移動が間に合わない方には、居室にポータブルトイレを設置している。	トイレ誘導の際、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。ポータブルトイレやバットを活用するなどして、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日行っている棒体操への参加による適度な運動や、手作りのヨーグルトを食べてもらったり、して便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回(月・水・金)となっているが、いつでも入れる体制を取っている。利用者の希望により昼間に入浴をしている方が多い。	入浴は、ユニットごとに入浴日を決めているが、少なくとも週3回は入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。昼間に眠りたい方は、居室で休んでもらっている。また、夜間の巡回時は、大きな音を出さないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力医療機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園に野菜や花を植えて、草抜きや水やり、をしてもらっている。また、野菜類は収穫する楽しみを感じてもらおうと共に、食卓に出して食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外出し食事や買い物を楽しまれている。	季節の花見や外食、阿波踊り見物などの外出を支援している。また、近隣の神社や地蔵のお参りにも出かけている。しかし、利用者一人ひとりの希望に応じた個別の外出支援を十分に行うまでには至っていない。	全職員で、個別の外出支援が困難な現状を整理したうえで、利用者一人ひとりの外出支援の目的や意義、必要性等について話しあわれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ひかる ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と共に相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度の小額を持って頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が緑のカーテンとなり癒しの空間となっている。また、ホールや食卓には季節の野菜や植物を飾っている。	明るい共用空間には、花や手芸品等を飾っており、居心地の良い空間となっている。出窓からは、植え込みの木々等を見ることができ、季節感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂で、入居者の方がそれぞれ気に入った場所で話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器等日ごろから使い慣れた物を持って来て頂いている。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や小物、写真等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの好みに応じた居室の環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。また、トイレの便器は立ち上がりやすいように、洋式となっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日ごろから理念を共有し、入居者の介護等に活かせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の小学生や保育所の子供達の来訪がある。また、運動会に招待されることもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席いただいた町内会長や老人クラブ会長に協力できることを伝えていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容や現状の報告を行い、意見交換等を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日ごろから連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜9時から翌日6時迄としている。日中は、開錠しており、自由に出入りができる様になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学んでいる。また、カンファレンスやミーティング等で話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受け、必要な時には家族への支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、本人や家族に丁寧な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、管理者や職員に、利用者や家族が気軽に言ってもらえるようにしている。意見や要望等があれば、対策を検討し、対処している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は昇給時に考慮している。また、労働時間は、週40時間を厳守している。親睦会等の費用を一部負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修があり、特に外部研修については、受講料・交通費等の事業所負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業等による交流の機会があり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	ひかる ユニット2	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に、面接を行い、困っていることや要望を聞いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に要望等を聞いている。また、利用開始後も不安に思っていることを聞き、介護に活かすように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や性格等を教えてもらっている。また、他の事業所から移られた時には、医療情報や生活情報			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝食・昼食・夕食は、ホールで入居者と職員が一緒に摂り、暮らしを共にする関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望を聞くとともに、ホームでの生活状況を知ってもらっている。家族とともに支えていけるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が気軽に来訪してくれている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをしたり、ドライブやレクリエーション等を通じて皆が楽しめる場を創っている。利用者が孤立しないように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や事業所に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、希望などを聞き把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス時には、状況等を話し合っ把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重要なことは、申し送りや個別の記録、連絡ノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、本人や家族から要望をお聞きし、介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要なことは、連絡ノートに記載し、情報は、職員間で共有している。また、カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、月1回来訪して散髪をしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整備して、入居者の方は、全員、協力機関の医師がかかりつけ医となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員がいるため、いつでも気軽に相談できる。変化が見られた時には、看護師に相談し医師からの指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関の医師と連携し、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に病状等の説明を行い、急変時や終末期の要望を聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また内部研修でも学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法や蘇生方法、地震時の対応方法などについて学習している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つけない言葉遣いや介護を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かり易く説明し、自己決定ができる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけをして、居室で着替えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に好きな食べ物を聞き、献立づくりに取り入れている。また、食材の下ごしらえや配膳、下膳を手伝ってくれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週作成した献立表を、管理者や併設事業所の管理栄養士にチェックしてもらっている。ペットボトルに白湯やお茶を入れ、居室でいつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した時には、プライドを傷つけないように声かけを行いながら、更衣介助をしている。また、トイレへの移動が間に合わない方には、居室にポータブルトイレを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、手作りのヨーグルトを食べてもらったりして、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回(火・木・土)となっているが、いつでも入れる体制を取っている。利用者の希望により、昼間に入浴をしている方が多い。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いている。昼間に眠りたい方は、居室で休んでもらっている。また、夜間の巡回時は、大きな音をださないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園に野菜や花を植えて、草抜きや水やりをしてもらっている。また、野菜類は収穫する楽しみを感じてもらうとともに、食卓に出して食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外食したり、食事や買い物を楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひかる ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方とも相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度の小額を持って頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、ショクブツが緑のカーテンとなり、癒しの空間となっている。また、ホールや食卓には、季節の野菜や植物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂で、入居者の方がそれぞれ気に入った場所で話しをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器など、日ごろから使い慣れた物を持って来て頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。また、トイレの便器は、立ち上がりやすいように、洋式となっている。		